

審査の結果の要旨

氏名 馬 志遠

一般に急速な社会変動の中で、大学教育と職業との間の関連性（relevance）にどのような問題が生じ、またそれをどう再構築していくのかは高等教育をめぐる研究において重要な課題である。とくに急速な経済成長をとげてきた中国においては、大学と職業とを結ぶ過程は国家によって管理される行政制度から、求職・求人間の相互探索を媒介とする「労働市場」へと、制度的に大きな転換を経た。その中で大学と職業との関連性の構造は大きく変化しており、それを実証的に把握することは学問的な関心のみならず、政策的にも大きな意味をもっている。本論文はそうした課題に、経済先進地域である上海にある六つの大学の卒業生約 1300 人（調査票配布は 1900）を対象としたアンケート調査の結果をもとに、大卒者の職業志向、大学教育に対する評価、職業達成を、その個人的属性、卒業大学の特性と関連させつつ分析することによってアプローチしようとするものである。

序章において大卒者の就職に関する先行研究を概観し、分析課題を設定したうえで、第一章では計画経済から市場経済への移行の中での中国における大卒労働市場の制度的な枠組みの変遷、現在の大学教育と学卒労働市場がおかれた状況の特質を論じている。

第二章では、大卒者の職業志向と、自らの能力に関する評価について、アンケート調査での質問項目への回答をもとに因子分析を用いて主要な次元を抽出し、そのそれぞれについて回答者の個人的属性や出身大学属性との統計的な関連を分析している。続く第三章では、企業が大卒者に要求する能力についての大卒者の認識を分析し、そこにいくつかの次元があること、それが大卒者の属性、出身大学の特性と、いくつかの点で重要な関連があることを示している。また第四章では、職業達成の指標としてとくに賃金をとりあげ、個人特性、出身大学特性、企業特性との関連で分析している。

さらに第五章では、出身大学の教育的特性に対する大卒者の評価を、その教育理念（志向性）、教育体制について分析し、そうした評価が職業達成と密接な関係をもっていることを示した。第六章では職業志向、能力自己評価、企業のもとめる能力、大学の教育特性と、職業達成との関連を分析している。第七章ではこうした分析結果を整理したうえで、中国の大学教育と職業との間に生じているミスマッチの構造を論じている。

以上のように本論文は、変動する社会的・制度的なコンテキストの中で、大学教育と職業との関係がどのような構造をもっているのかを、個人的属性や大学特性、職業に関するアスピレーションや能力への自己認識、企業の能力要求への認知、職業達成との関係を幅広く吟味しつつ明らかにした点に固有の寄与がある。分析対象が錯綜した構造を含むために、端的な仮説とその検証という形態をとり得なかった点、またそれに関連して統計的な分析が必ずしも体系的となっていない点が指摘されたが、これまでほとんど実証的な蓄積がなされていない分野で重要な寄与となっている点は高く評価された。このような観点から博士（教育学）の論文として十分な水準に達しているものと認められる。